海外システム革新事例

福味郁二*
対馬寿世*

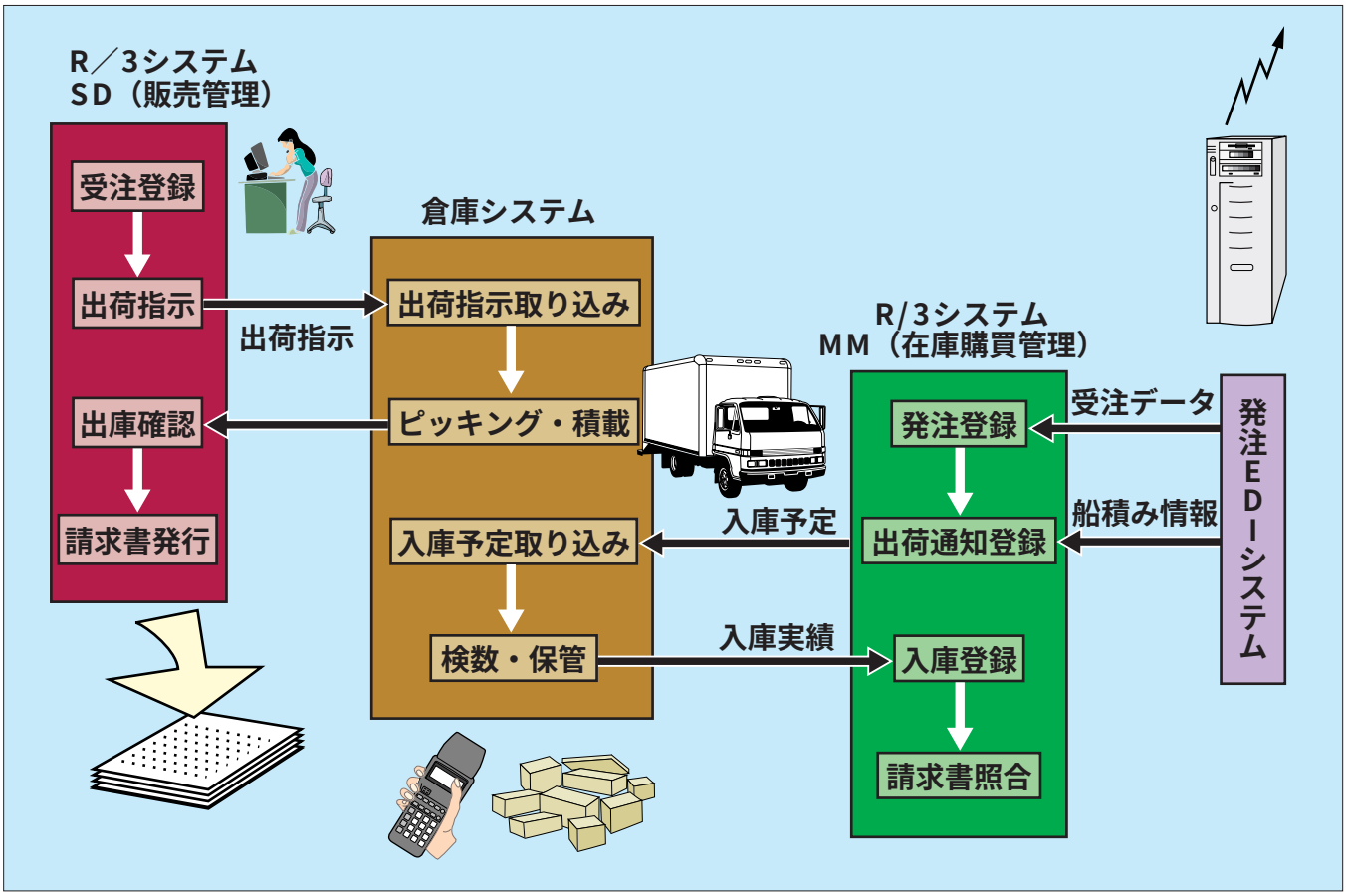
要　旨

三菱電機の海外拠点の最近の情報システム構築の背景には，合併，新設，業務量の増大，業態の変化，市場への対応，2000年問題，費用削減等があり多岐にわたっている。

海外の事例として紹介する台湾の販売会社では，半導体の取扱量急増への対策，グローバルな情報システム構築のための基盤整備を目的に，情報システム再構築プロジェクトを1995年10月に立ち上げた。受発注オーダー管理，売掛金・買掛金管理，与信管理の新規導入，また，日本への発注を扱うEDI(Electronic Data Interchange)システムとのインタフェースを追加して，96年９月に新システムを稼働させた。

中国語繁体字の印字，統一発票番号の採番といった台湾で必す(須)とされる要件とR／３提供機能の間でギャップがあり，これらの問題は，台湾におけるR／３導入の先駆的な事例であるこのプロジェクトの中で解決した。また，現地要員の育成・確保，先行事例の成果の利用方法，データ移行に関する課題に対処しながらプロジェクトを推進していった。他の事例を含め多くの経験から，海外案件ではシステム化の範囲，保守・運営方法等の検討が重要であると言える。

(注)“SAP”R／３”は，SAP Aktiengesellshaftの登録商標である。



受発注業務フローと各システムの役割

受注業務フローとしては，R／３システムで受注登録・出荷指示を行い，倉庫システムでピッキングを行った後，R／３システムで出庫確認と請求書発行を行うという流れとなっている。一方，発注業務では，EDIシステムに発注データを入力・送信し，確定したオーダーがR／３システムに登録される。船積み情報も，R／３システムに出荷通知として登録され，倉庫システムに入庫予定データとして送られる。倉庫システムから送られた入着実績データによってR／３システムで入庫登録が行われた後，請求書照合を行う。

*情報システム技術センター